

笠山椿群生林

椿は日本の歴史と文化の中で古くから重要な位置を占めてきた。日本書紀や万葉集など、日本の初期の文献にも椿が登場している。

笠山山麓の森は、明治時代（1868～1912）以来、燃料のための伐採が繰り返され、20 世紀半ばには低木が生い茂り使えない状態になっていた。しかし、1970 年、ツバキの専門家である京都の渡邊武教授が、笠山がツバキ林を作るのに最適な場所であることを発見し、萩市はここにツバキを植えた。笠山の地質構造と独特の微気候が、ツバキが生育する複雑な生態系を作り出している。

笠山の北端に位置する虎ヶ崎には、現在 25,000 本以上のヤブツバキが植えられている。面積は約 10 ヘクタールで、サッカー場のピッチ 14 面分の広さがある。ツバキの開花時期は 12 月上旬から 3 月下旬で、ピークは 2 月中旬から 3 月下旬である。また、この時期には「萩・椿まつり」が開催され、真っ赤な花が道を埋め尽くす姿を見ようと、国内外から数千人もの観光客が訪れる。

この群生林の椿の主な品種は、「萩小町」、「萩の里」、「萩の露」である。色、大きさ、咲き方などがすべて異なる。13m の展望台から見ると、群生林の全容がよくわかる。特に、縁結びのシンボルとされる「連理の椿」は、二重幹の樹形が特徴である。

アクセス：JR 東萩駅または萩バスセンターから防長バスで「越ヶ浜バス停」（約 20 分）下車、徒歩約 40 分。萩バスセンターからタクシーで 20 分。

Google マップのリンクは[こちら](#)